

地域 歴史 芸術

私たちは何をどう

保存するのか？

佐賀大学美術館
開館10周年を記念した展覧会を前に、
芸術と地域を視野に入れた
「美術館×博物館」の
新たな活動領域を巡る
講演・討論会を開催します

2023 無料 予約不要

6月10日(土) 14:00~16:00 教育学部1号館 多目的室
「分野を横断する大学ミュージアム」 加藤幸治(武蔵野美術大学美術館・図書館)

6月24日(土) 14:00~16:00 教育学部1号館 多目的室
「ミュージアムを再定義する」 神野真吾(角川武蔵野ミュージアム、千葉大学)

7月8日(土) 14:00~16:00 教育学部1号館 多目的室
「総合大学における文化芸術施設の新たな役割」
渡部葉子(慶應義塾大学アート・センター、慶應義塾ミュージアム・commons)

7月15日(土) 14:00~17:00 教育学部1号館 多目的室
「大学ミュージアムと地域の関わり」
藤浩志(秋田公立美術大学)×三島美佐子(九州大学総合研究博物館)

7月22日(土) 14:00~16:00 教育学部1号館 多目的室
「歴史と人と地域をつなぐ博物館」 西聡子(市原歴史博物館)

8月20日(日) 14:00~16:00 教養教育2号館 2109AL室
「文化財と地域を保存する/修復する」 宮本品朗(東北芸術工科大学)

8月26日(土) 14:00~16:00 教養教育2号館 2109AL室
「市民とミュージアムをつなぐ」 西澤真樹子(大阪自然史センター)

9月2日(土) 14:00~17:00 教養教育2号館 2109AL室
「佐賀の地域資源とミュージアム」
藤井直紀(生物海洋学研究者)×亀井裕介(やながわ有明水族館)

学内マップ



6.10 sat



KATO KOJI

加藤 幸治

武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授、武蔵野美術大学美術館・図書館副館長

専門は民俗学、博物館学。和歌山県立紀伊風土記の丘学芸員(民俗担当)、東北学院大学文学部歴史学科教授(大学博物館学芸員兼任)を経て、2019年から現職。

近著に、加藤幸治監修・武蔵野美術大学民俗資料室編『民具のデザイン図鑑—くらしの道具から読み解く造形の発想』(誠文堂新光社、2022年)『民俗学 フォークロア編—過去と向き合い、表現する』(武蔵野美術大学出版局、2022年)など多数。

6.24 sat



JINNO SHINGO

神野 真吾

千葉大学准教授、角川武蔵野ミュージアムアート部門ディレクター

東京藝術大学大学院修士(美学)。山梨県立美術館で学芸員を11年務めたのち現職。2020年11月にオープンした角川武蔵野ミュージアムでは、アート担当のボードメンバーも務め、2021年に行われた千の葉の芸術祭(主催:千葉市)では総合ディレクターを務めた。主な企画展に『現代美術百貨展』(2000年、山梨県立美術館)、『新版/日本の美術』(2002年、山梨県立美術館)、『コロナ禍とアマビコ』(2022年、角川武蔵野ミュージアム)『タグコレ現代アートはわからんね』(2023年、角川武蔵野ミュージアム)など。

7.8 sat



WATANABE YOHKO

渡部 葉子

慶應義塾大学アート・センター教授/キュレーター、慶應義塾ミュージアム・commons副機構長

専門は近現代美術史。東京都美術館、東京都現代美術館において学芸員として活動。2006年より慶應義塾大学アート・センターにて、展覧会や各種催事を企画実施するとともに所管アーカイヴにも関わる。アーカイヴ活動と展示やワークショップを結びつけた活動を展開。また、慶應義塾ミュージアム・commons(KeMCo)の立ち上げに携わり、教育プログラムではOBL(オブジェクト・ベース・ラーニング)を実践。

7.15 sat



FUJI HIROSHI

藤 浩志

美術家、秋田公立美術大学教授、秋田市文化創造館館長

鹿児島生まれ。京都市立芸術大学在学中演劇活動に没頭した後、地域をフィールドとした美術表現を志す。同大学院修了後バブアニューギニア国立芸術学校に勤務し、原初的表現と人類学、社会学、ヤセ犬に出会う。バブル崩壊期の土地再開発業者・都市計画事務所に勤務し、土地と都市を学ぶ。全国各地の芸術祭、文化施設をはじめ、様々な空間でのプロジェクト型の表現を実施。十和田市現代美術館館長、秋田公立美術大学副学長を経て現職。

7.15 sat



MISHIMA MISAKO

三島 美佐子

九州大学総合研究博物館教授

専門は生物学(植物系統学)。2002年九州大学総合研究博物館着任。現在は、九州大学の中核的な植物標本および材鑑のコレクション、それを形成した金平亮三、キャンパス移転で救済した木製家具、そしてそれらが相互に関連した複合的な自然史研究に注力している。また、キャンパス移転を契機に「大学博物館のモノと場」をテーマとした実践に取り組み、近年は「まちとミュージアム」「まちと植物」のあり方にも注目した実践研究にも取り組んでいる。

7.22 sat



NISHI SATOKO

西 聡子

市原歴史博物館学芸員(日本近世史専門)

2022年11月開館の市原歴史博物館学芸員。専門は日本近世史、歴史学。一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程を修了後、日本銀行金融研究所アーカイブのアーキビストを経て、2018年から現所属博物館の整備・開館業務に携わる。

近著に『四国遍路と旅の文化—近世後期民衆の信心』(晃洋書房、2022年)がある。

8.20 sun



MIYAMOTO AKIRA

宮本 晶朗

東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科准教授(文化財保存修復研究センター研究員を兼務)

専門は彫刻作品(仏像、近現代彫刻)の保存修復。2008年、東北芸術工科大学大学院修士課程保存修復領域修了。白鷹町文化交流センターに学芸員として勤務し、アートや仏像の展覧会、ダンス公演などを企画・担当する。東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター学外共同研究員として、仏像等の調査・研究や保護活動に参加。現在は同大学教員とともに、株式会社文化財マネージメント・代表取締役を務める。「みちのおくの芸術祭 山形ピエンナーレ」にキュレーターとして参加(2018年〜)。

8.26 sat



NISHIZAWA MAKIKO

西澤 真樹子

認定NPO法人大阪自然史センター職員、大阪市立自然史博物館外来研究員、てこぼこさんとくはくぶつかん副代表、ないわホネホネ団団長

自然史博物館に惹かれ、2001年から大阪へ。1955年から続く大阪市立自然史博物館友の会の評議員として、経営・事業ワーキンググループに所属し、寄付制度の導入、ペピーカーで参加できる行事など、市民が博物館を応援する仕組み作りや、積極的に関わるための様々な企画を実施。2012年から現職。近年は寄付担当として、博物館を取り巻く支援者層の分析やSNSなどの広報に関わる。最近の関心は、福祉業界とのタッグの組み方。

9.2 sat



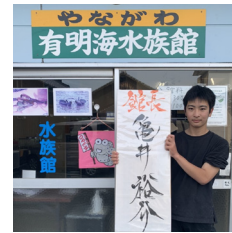
FUJII NAOKI

藤井 直紀

生物海洋学研究者(クラゲ研究者)

広島大学大学院修士、博士(学術)。沿岸海域の環境や生物群集の変化について研究を行っている。学生の頃からクラゲ研究をおこなっていることから、クラゲ類の行動生態や食用クラゲの利活用についても興味を持っている。市民と協働・対話する研究スタイルを重視している。鹿島市干潟交流館には建設計画当時から関わっている。

9.2 sat



KAMEI YUSUKE

亀井 裕介

やながわ有明海水族館館長、佐賀大学農学部生

高校2年よりやながわ有明海水族館館長を務める。水族館の管理やイベントの開催、多数のメディアへの出演などを行う。とはいいつつ実態はひたすら湿地帯の生き物を追い求める18歳の生き物ヲタク。最近のニュースは海辺に打ち上がったリュウグウノツカイを食べたことかハタレカワザンショウという1mmほどの巻貝を見つけたこと。著書に『カメスケのかわいい水辺の生き物』。

予告

佐賀大学美術館開館10周年記念展 [会期] 2023年9月9日(土)~10月22日(日)

芸術地域デザイン学部教員と他学部教員とが連携しながら新たな芸術創造の可能性を探ります